

2年連続合格技術士(建設部門)が書いた

技術士試験合格マニュアル
(第1章)

だれも話さなかった、技術士試験に合格するために最初
に知っておかなければいけない当たり前のこと

～ Heroの技術士塾～

第 1 章

だれも話さなかった、技術士試験に合格するために
最初に知っておかなければいけない当たり前のこと

1. 受験しなければ合格しない
2. 試験官に最後まで論文を読んでもらわないと合格しない
3. 技術士試験に合格するには、勉強を続けること

1 . 受験しなければ合格しない

あなた 「何を当たり前のことを言ってるんだ！！！！もっとまじめに話せ。」

わたし 「いえ、ふざけているわけではありません。いつも最初にこの話をするんですよ。あなたは技術士試験を受けるまでのだいたいの流れを知っていますか？」

あなた 「いや……。初めての受験なので、あまり知りません。教えてください。」

わたし 「了解です。受験の流れはだいたい以下ようになります。」

- 1月 受験を決意
 - 2月 過去問題などの傾向を調べる。受験準備開始
 - 4月 受験申し込み。本格的に受験勉強開始
 - 8月 筆記試験。口頭試験準備開始
 - 11月 筆記試験合格発表
 - 12月 口頭試験
 - 2月 口頭試験合格発表
 - 3月 技術士登録
- (2006年度参考)

判りますか？技術士試験を受けようと考えている方は、だいたい1月ぐらいに決心して、2月ぐらいから過去問題を調べたりなどの対策を始めます。

そして、4月に申し込みをして本格的な勉強をして、8月の筆記試験に臨みます。11月に筆記試験合格発表、12月に口頭試験、そしてやっと2月終わりに口頭試験合格発表です。

ここで昔流行った「100人の村」という例えで説明します。

1月に技術士試験を受験しようと思ってる人が100人います。4月に受験申し込みするのは45人です。そして8月の筆記試験を受験するのは27人、筆記試験に合格するのは4人、口頭試験は4人全員が受験して、3.6人が口頭試験に合格します。

1月	申し込み	筆記受験	口頭試験	合格
100人	45人	27人	4人	3.6人

まず、1月に受験を決心したのに55人の人はもう技術士試験の受験申し込みさえしません。もったいない。

4月の時点で申し込みしなければ、仕事が楽になって勉強できる環境になっても1年以上待たなければいけません。自分で人生の可能性をつみ取ってどうするのっ！ていうことです。

もっともったいないのは申し込みしたのに18人の人が受験をしません。12000円の受験料を捨ててしまっています。理由は「準備不足」です。

声を大にして言いたい。私も含め受験場に足を運んだ27人全員が準備不足で試験にのぞんでいます。受験を放棄した18人と同じなんです。

私は1月に受験しようと思った100人が受験していたら10人以上合格していると思います。今の3倍以上の合格者数です。

私は、2回目の技術士試験のときに、1週間程度の勉強しかできませんでした。それでも受験場に足を運びました。経験論文はその場で考えて書きました。

「絶対に合格していない！」

講師として私が客観的に自分の論文を採点して感じたことです。論文の程度も高くありません。でも「合格！」していました。(口頭試験に向けて論文の復元もしていなかったなので、非常にあわてましたけれど…)

なぜでしょう！1つは「合格論文を書くコツ」を理解していたということ。それと2番目は受験したことです。

準備不足だからという理由で技術士試験を受けていなかったら、皆さんに私の考えをお伝えすることもなかったし、ホームページやブログを開くこともなかったと思います。

私は、「受験すること」を本当に大切なことだと思っているんです。

本屋で売っている「対策本」には、このようなことは書いていません。知識ばかり羅列してあり、できあがった合格論文が掲載されています。

技術士試験の概要を理解するために「対策本」を買って読んでください。そして、合格論文の程度を理解してください。それでもう、本棚の奥

にしまっただいてかまいません。あとは、このホームページに書いてある良い指導者を捜し勉強していただければだいじょうぶです。

それでも不安な方は、Heroの技術士塾講座を利用してください。あなたの不安を取り除いて、合格を勝ち取ることができるはずです。

2 . 試験官に最後まで読んでもらわないと合格しない

あなた 「また当たり前のような気がしますけど・・・」

わたし 「そうですね。こう書けば当たり前だと思ってしまうのですが、いざ論文を書き始めると、書くこと自体に一生懸命で読みやすいか読みにくいかは後回しになってしまいます。」

あなた 「う～ん。どう書いたら良いんでしょうか？」

簡単に言うと「**簡単に書きなさい**」ということです。

皆さんの論文は、とても高度です！ハイレベルなんです。言い間違いではありませんよ。もう一度いいますよ。採点者が理解できないくらい高度なのです。

自分の知識を目一杯書こうとしています。自分の持っている能力を100%、いえもっと、120%を書こうとしています。

そうするとどうなるか？判りますか？

試験官が理解できないのです。

そして試験官は、「おれにも判らないような高度な知識を持っている！すごい！」と感心して高得点をつけてくれる…わけはありません。

試験官は次のように判断します。「なんだこの論文は！？全く理解できないぞ。おれに理解できないということは、普通の技術者が読んでも理解できない。論文は自分の考えを他の人に理解してもらうために書くという基本さえ判っていない。」

そして、判らなくなったところで読むのをやめてしまいます。

せっかく一生懸命書いた論文が、最後まで読まれることもなく30点や40点の点数を付けられて、不合格！になってしまうのです。

プロゴルファーは、自分の持っている能力の70%～80%でラウンドしていると言います。それが一番、良い成績を残せることが判っているからですね。

100%の力でドライバーを振ったら、ときにはバカッ飛びするかもしれませんが、それが何もならないことを知っているのです。

トーナメントを最高の成績で終わるために、どの試合に力を入れるか。1ラウンドを最高の成績で終わるために、どのホールを頑張ればいいのか。そのためには、100%の力を常に出しては途中でくたびれてしまうことが判っているから、70%の力で戦うのです。

ただ、あなたはまだプロではありません。

プロは自分の力を判っています。100%を判っているから80%を出せるのです。

技術士試験ではどうすればいいのでしょうか。ゴルフとはちょっと違います。1位にならなくても良いのです。

技術士試験では、60点で合格する人、100点で合格する人がいます(・・・100点はいないかもしれませんね。)

合格すれば両方の方とも同じ技術士です。

60点で合格した人は「60点技術士」、100点で合格した人は「100点技術士」ではなく、合格者はみんな同じ「技術士」です。

80点の論文はどの程度か、70点は？合格ギリギリの論文はどういう論文かをある程度判って、最低ラインをいつでも書けるレベルになれば良いのです。

最低レベルの論文とは、あなたの隣にいたり上司・同僚・後輩の技術者が読んで、ある程度理解して最後まで読めるレベルです。

そういう論文が、試験官に最後まで読んでもらえる論文 = 合格論文なのです。

3 . 技術士試験に合格するには、続けること

わたし「継続は力です！」

あなた 「それは充分判っています。でも、仕事が忙しくて、どうしても勉強できないときがあるからあきらめてしまうのです。」

わたし 「あなたは勉強できない時期がありますよね。反対に勉強できる時期もあるはずです。」

あなた 「もちろんそうですよ。でも、他の人は私が勉強できない時期に勉強しているはずですから、私より良い点数がとれるじゃないですか！」

わたし 「また、勝手に判断していますね。う～ん、対策本には書いてないからしょうがないですかねえ。仕事をしながら技術士試験を受けているのはあなただけではありません。受験者全員といっても良いのです。だから・・・、ほとんどの人は、仕事が忙しい＝勉強できない＝勉強していない時期がかならずあるのです。」

あなた 「あっ・・・！そうですね。私が世界で一番忙しいわけではないですね。」

勉強できない時期は必ずあります。暇で暇でしょうがない人や受験のために仕事をしなくていい人は・・・いません！

技術士試験を始め、仕事をしながら受験する試験は、効率的に勉強すること続けることがキーポイントです。

私はこう見えても・・・(見えてませんか！)からだが丈夫ではありません。ストレスと働き過ぎで現場で倒れてしました。だから体調の悪い時

期が必ずあります。

しかも不思議と梅雨の時期と冬、季節の変わり目に調子が悪くなります。特に梅雨の時期がいけません。でも、技術士試験にとってはもっとも大切なときですよ。

平成16年も17年も、1ヶ月ほとんど勉強のできない時期がありました。体調不良の1ヶ月でどれくらい勉強したと思いますか？8時間です。1日ではありませんよ。1ヶ月で8時間です。もちろん作業時間を含めての勉強時間です。

そういう時期が必ず、あなたにも訪れます。

どうするか？電車に乗っている隙間時間に勉強する・・・正解！
睡眠時間は最低確保して、できる時間だけ勉強する・・・中正解！！
忙しい時間が過ぎたら、勉強を再開する・・・大正解！！

自分にできる限りのことをやれば良いんです。1ヶ月勉強できなかったから、もう間に合わないと自分で判断して、あきらめる人が多すぎます。

あなたの周りに技術士の方がいたら聞いてみてください。必ず勉強できなかった時期があったはずですよ。

合格して技術士になった方はどうしたか？

とにかく勉強を再開したのです。そしてまた勉強できない時期が来る。また再開する。それを繰り返すことが継続するということです。

ず～っと順調に勉強が続けられれば最高ですが、それだけが継続ではありません。

休み、再開、休み、再開・・・これも立派な継続です。

今書いた3つのことは、とても大切なことですが、どの対策本にも書いてありません。参考になったでしょうか。

最後に、

あなたの名刺に

技術士（ 部門 ）

と印刷されたところを想像してください。

きっとそうなります。

皆さん、技術士試験に合格して下さいね。